

2025年度普及啓発事業について

1 手話言語・コミュニケーション交流セミナーの開催

1 開催方法

- ショッピングモールの屋内イベントスペース等、不特定多数の県民の目に留まる場所での開催に変更。
- 集客面を考慮して、名古屋市内で開催。

2 開催時期・時間

- 2025年10月～11月の土曜日・日曜日・祝日のうち1日
- 開催時間は、集客と準備時間を考慮して午後を想定。

3 参加者・定員

- 誰でも気軽に参加できるよう事前申し込みは行わないこととして、参加者及び定員に制限は設けない。

4 開催内容（案）

【トークショー】

- 障害に関係のある著名人を招き、司会も交えてトークショーを行う。
- 著名人は障害の種別に関係なく、知名度があり集客に期待ができる方を選定。
- トークショーは30分程度とする。
- 手話と要約筆記による情報保障あり

【障害者コミュニケーション手段の体験】

- 障害者コミュニケーション手段を体験してもらうためのエリアを会場内にあらかじめ設置しておき、トークショーと並行して実施する。
- 体験エリアの種類とその内容は、以下の3つを想定。
 - ・盲ろう（手のひら書き）
 - ・聴覚障害（手話、要約筆記）
 - ・視覚障害（点字読み体験）
- 体験エリアの設営にあたっては、専門部会委員の所属団体にも御協力いただき、障害当事者にも参加してもらい一般来場者との交流を行う。
- 各障害種別（視覚障害、聴覚障害、盲ろう、ALS・肢体不自由、発達障害・知的障害）の紹介パネル等を設置した普及啓発ブースも設置する。

5 その他

- 以下についても考慮する。
 - デフリンピック開催のPR。
 - 会場となるショッピングモールでの合理的配慮の事例を紹介。

2 コミュニケーション支援アプリの運用・周知活動

（1）運用内容

「避難所」における表示項目を追加予定。

【私（障害のある方）から伝えたいこと】

- ・「〇〇が欲しい」という項目のバリエーションとして、筆談ボード、補聴器の電池、つえ、車椅子を追加。
- ・「したいこと・してほしいこと」という項目のバリエーションとして、貼り紙で情報提供してほしい、音声で情報提供してほしい、筆談してほしいの項目を追加。
- ・「しりたいこと」という項目のバリエーションとして、字幕付きテレビはありますか、ラジオはありますか、手話通訳者はいますか、Wi-Fiは使えますか、同じ障害の方はいますかを追加。
- ・「伝えたいこと」という項目のバリエーションとして、「居住スペース」を追加。さらにその選択肢として「通路側」、「掲示板の近く」、「壁際」、「静かなところ」、「車椅子のおける場所」を追加。

（2）周知活動

- ・県の行事、研修におけるチラシの配布
- ・県政お届け講座への応募団体、その他別途希望のあった団体に説明を実施
- ・県、市総合防災訓練における周知活動の実施

3 「避難所における障害のある人へのコミュニケーション方法」についての普及啓発リーフレットの作成及び配布

(1) 目的

災害発生時の避難所における障害のある方の情報格差の解消のためのコミュニケーション手段等を記載したリーフレットを作成し、避難所の運営を担う自治会、ボランティア団体などの一般県民を対象とした普及啓発を実施することとする。

(2) 主な仕様、記載内容、デザイン（事務局案）

- ・ A5 判中綴製本、全 8 ページ、カラー印刷、音声コード付き
- ・ 災害発生時の避難所における聴覚障害、視覚障害、盲ろう、知的障害、発達障害、肢体不自由、ALS の各障害種別の困り事とその配慮方法について記載
- ・ 避難所で有用な手話の紹介
- ・ 必要に応じてイラストを挿入

(3) 作成数

- ・ 2000 部（予定）
- ・ 愛知県の Web サイト上でも電子データで公開予定

(4) 配布先（予定）

- ・ 県内 5 4 市町村福祉部局及び防災部局
- ・ 県内市町村社会福祉協議会